

# 役割語によって喚起される使用者のイメージ

— 韓国人日本語学習者と日本語母語話者を比較して —

田村彩香・李 種恩・永田良太

Study of Role Language Impression: Comparison between  
Korean Learners of Japanese and Native Japanese Speakers

Ayaka TAMURA, Jongeun LEE, Ryota NAGATA

キーワード：役割語，イメージ，性差，韓国人日本語学習者，日本語母語話者

## 1. はじめに

近年、日本のアニメや漫画に興味を持ち、日本語の学習を始める韓国人日本語学習者が増加している。恩塚（2011）は最近の大学生の日本語学習動機はアニメやゲームなどの日本のポップカルチャーによるものが多く、バブル期に見られた経済的理由にもとづく学習動機はほとんど見られなくなったと述べている。さらに、恩塚（2011）では、韓国の大学で日本語を学習する大学生に対して調査が行われており、調査の結果、授業以外での自主学习に関して62%の学生が日本語放送、ドラマ、アニメの視聴を挙げていることが指摘されている。

このように、韓国人日本語学習者にとって日本のアニメや漫画は学習動機として大きな役割を果たすとともに、学習言語である日本語にふれるインプットとして重要な役割を果たしていると考えられる。しかしながら、アニメや漫画で用いられる日本語には、日本語母語話者が日常のコミュニケーションにおいて用いる日本語とは異なる部分がある。例えば、アニメや漫画の中では、キャラクターに関する特定のイメージを喚起させるために「ぞ」、「ぜ」、「わ」などの「役割語」（金水 2003）の使用が多く見られる。

このような役割語に関して、日本語教育の現場で扱われることは少ないが、日本語学習者はそこからのようなイメージを喚起しているのだろうか。

本研究では、韓国人日本語学習者が日本語の役割語から喚起するイメージについて、日本語母語話者と比較しつつ明らかにする。

先に述べたように、韓国人日本語学習者は日本のアニメや漫画に日常的に接することが多い。鄭（2007）で挙げられている例を見ると、韓国のアニ

メや漫画では当該人物の「年齢」が強調されるのに対して、日本のアニメや漫画では当該人物の「性別」が強調されるというそれぞれの特徴がうかがわれる。先に挙げた「ぞ」、「ぜ」、「わ」なども当該人物の「男らしさ」や「女らしさ」を強調するために用いられていると考えられる。本研究では、このような指摘をふまえ、役割語によって喚起される性差に関するイメージについて調査を行う。

なお、役割語は人称詞や感動詞など様々な要素に見られるが、本研究では特に文末表現に着目して考察を行う。

## 2. 先行研究

### 2.1. 役割語の定義

金水（2003）は「役割語」について次のように述べている。

ある特定の言葉遣い（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等）を思い浮かべることができる時、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができる時、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。（p.205）

本研究においても、このような定義に従い、文末表現から喚起される当該人物のイメージについて調査を行う。

### 2.2. 韓国語の文末表現と性差

韓国人日本語学習者が日本語の文末表現から喚起するイメージについて分析するに先立ち、母語であ

る韓国語の文末表現と性差について確認しておきたい。鄭（2007）は韓国語における疑問の文末表現に関して、男性は「-니 nya」を多く使用する傾向があるのに対して、女性は「-니 ni」を多く使用する傾向があると述べている。しかしながら、近年は両方使われている場合もあり、性差が見られなくなっているように思われる。

また、韓国語には話者間の上下関係（年齢）を表す文末表現が見られるという特徴が存在する。例えば、目上の男性は目下の男性に対して「-하시게 hashige」を用いる。また、女性は年齢により「-니 ni」, 「-요 yo」, 「-까요 ggayo」を区別して使用しているという。このような文末表現の使用制限については日本語にも見られ、この点で両言語は共通していると言えよう。その一方で、韓国語には日本語のように特定の人物像（老人語、博士語等）を表す表現法が存在しないということが鄭（2007）では述べられている。

### 2.3. 日本語の文末表現と性差

次に、日本語の文末表現と性差についても確認しておきたい。金水（2003）では、言葉の性差を文法的特徴から整理している。本研究で考察を行う文末表現に関して、金水（2003）では男性専用表現、女性専用表現という観点から次のようにまとめられている。

男性専用表現：だ（「だわ」, 「あらいやだ」等の  
独り言を除く）, 終助詞「ぞ」, 「ぜ」

女性専用表現：終助詞「わ」

柳（2007）は日本のアニメ映画における男女の登場人物による終助詞の使用実態を分析している。その結果、男性と女性の話者にそれぞれよく使われている終助詞について、以下のようにまとめられている。

男性話者：よ>ね（え）>ぞ>な（あ）・さ>ぜ・  
の>か>もの（もん）

女性話者：ね（え）>よ>の>わ>かしら・さ>  
な（あ）・もの（もん）>か

このような結果にもとづき、柳（2007）では話者の強い意志を表す終助詞「よ」, 「ぞ」, 「ぜ」が男性の話者によく使われていることが指摘されている。

また、自身の意見を強く主張せず、相手の同意を求め、確認するという終助詞「ね」が女性の話者によく使われているという。さらに、主張や確信を表す「よ」は、女性話者に比べて男性話者に多く見られることも指摘されている。

終助詞と話者の性別との関係に関して、上記のような特徴が指摘されるとともに、柳（2007）では、全体的な使用傾向をふまえ、「ね（え）, よ, さ, な（あ）, か, の, もの（もん）」を中立性終助詞, 「ぞ, ぜ」を男性中心の終助詞, 「わ, かしら」を女性中心の終助詞として分類されている。

### 2.4. 韓国人日本語学習者を対象にした役割語研究

鄭（2007）は日本語を第二言語とする日本在住の日本語学習者が日本語の役割語についてどのような知識を持っているかについて調査を行っている。鄭（2007）では、漫画の登場人物のイラスト10種類（韓国語原作の漫画5種類・日本語原作の漫画5種類）が用いられ、それら10種類の登場人物の言葉づかいについて調査されている。

調査方法に関して、漫画の中で実際に用いられているセリフ20文（日本語原作10文・韓国語原作10文）を用いて調査が行われている。調査票に人物イラストと言葉づかいがランダムに配置され、被調査者は各人物イラストにふさわしいと思う言葉づかいを2文ずつ選択するように求められた。

その結果、人物のイラストと言葉づかいの正解率は日本語母語話者が70.2%、韓国人日本語学習者が46.5%であった。日本語母語話者の正解率の内訳を見ると、日本語原作が89.6%、韓国語原作からの訳本が47%であった。一方、韓国人日本語学習者の正解率の内訳は日本語原作が51.4%、韓国語原作からの訳本が40.5%であった。特に日本語母語話者の場合、韓国語原作の漫画の人物イラストと言葉づかいの正答率が低くなる傾向が見られたことから、「翻訳」というフィルターを通すと役割語についての判断が難しくなると言える。

### 2.5. 先行研究のまとめと残された課題

これまで見てきたように、日本語の文末表現に関しては性差が存在することが指摘されている。具体的には「ぞ」や「ぜ」のように男性に特徴的に使用される形式と「わ」や「かしら」のように女性に特徴的に使用される形式が存在する。

従来の研究においては、文末表現を用いる「話者」

の観点から上記の指摘がなされてきたが、日本語母語話者がそれらの形式から当該話者の性別に関するイメージを実際にどの程度喚起するのかという受け手側からの検証も必要であろう。また、日本語学習者においても同様に形式とイメージとの結びつきが見られるのかについても検討の余地が残されていると言える。

鄭 (2007) では韓国人日本語学習者を対象にして、上級の韓国人日本語学習者でも役割語の理解には差があることが明らかにされているが、鄭 (2007) で行われた調査では実際の漫画に登場するキャラクターが用いられていたため、被調査者が当該キャラクターの言葉づかいを事前に認識していた可能性もある。この点をふまえ、本研究では日本語の文末表現と性別のイメージとの結びつきについて考察を行う。

### 3. 調査方法

本研究における被調査者は韓国の釜山大学に在籍する韓国人日本語学習者39名(男性10名,女性29名,平均年齢22.2歳:日本語を主専攻とするN1・N2取得者)と広島大学に在籍する日本語母語話者40名(男性14名,女性26名,平均年齢22歳)である。

調査項目として、まず、初級の日本語の動詞を4語(「食べる」,「話す」,「来る」,「する」)選定した。選定に際しては『みんなの日本語初級I本冊』(スリーエーネットワーク,1998)から文末詞と共起しても不自然さが生じない動詞を選定した。例えば、「浴びますよ」等、前後の文脈がなく提示された場合に違和感を覚えるような動詞については除外した。

また、柳(2007)を参考に、性差に関わると思われる文末詞9語(「ぞ」,「わ」,「よ」,「ね」,「かしら」,「もの／もん」,「な(あ)」,「のじゃ」,「ぜ」)を選定した。そこで選定された9種類の文末詞と4種類の動詞を組み合わせた文からなるリストAとリストBという2種類のリストを作成した。それぞれのリストには18文ずつ配置され、二つのリストで提示される文末詞と動詞は偏りがなかった。また、同じ動詞や文末詞が連続して提示されないように配置した。

調査はアンケート形式で行われた。被調査者には上記の2種類のいずれかのリストが配られ、被調査者はそこで提示された「動詞+文末詞」によって構

成される「食べるわ」や「するぞ」といった文の話者について、「女性」、「男性」、「どちらも使える」といった基準で判断するように求められた。なお、「私」、「俺」、「僕」といった一人称代名詞は判断に影響を及ぼすと考えたため、提示文には使用しなかった。

## 4. 結果と考察

本節においては調査結果を文末詞別と動詞別に示し、分析と考察を行う。

### 4.1. 文末詞別の分析

まず、文末詞別に分析を行う。調査結果を見ると、韓国人日本語学習者がそれぞれの文末詞から受けるイメージには日本語母語話者と共通する部分と異なる部分とが見られることが明らかになった。以下においては、両者で異なる傾向が見られた「ぞ」、「わ」、「のじゃ」という三つの文末詞の調査結果について分析と考察を行う。

まず、文末詞「ぞ」に関して、両者の回答をまとめたものが図1である。

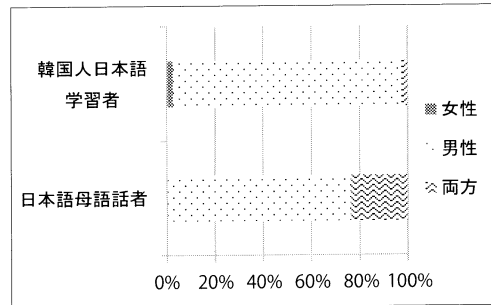


図1 「ぞ」の調査結果  
(韓国人日本語学習者-日本語母語話者)

先に見たように、文末詞「ぞ」は男性に使用される形式であると指摘されることが多い。図1を見ると韓国人日本語学習者は「男性」という回答がほとんどであり、先行研究の指摘に合致する。

これに対して、日本語母語話者では「両方」という回答が24%見られる。日本語母語話者においても76%は「男性」と回答していることから「ぞ」によって「男性」のイメージが喚起される度合いは高いと言えるが、その結びつき方の度合いは両者で異なる。上記の結果をふまえると、「ぞ」と「男性」イメージとの結びつきは韓国人日本語学習者の方が固定化

していると言える。

次に、女性に特徴的に使用される形式であるとされる文末詞「わ」に関して、韓国人日本語学習者と日本語母語話者の調査結果をまとめたものが図2である。

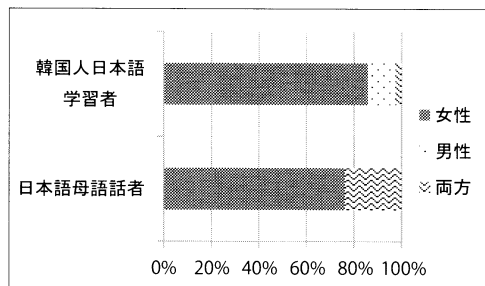


図2 「わ」の調査結果  
(韓国人日本語学習者—日本語母語話者)

先に見たように、文末詞「わ」は女性に特徴的に用いられると指摘される。本調査結果を見ると、韓国人日本語学習者と日本語母語話者のいずれにおいても「女性」という回答が最も多く、この点で両者は共通する。ただし、日本語母語話者には「両方」という回答も24%見られる。これは今回の被調査者が広島大学に在籍する日本語母語話者であったことが関わると思われる。広島方言においては「疲れたわ」や「無理だわ」のように「わ」が男女問わず文末に用いられるという特徴が見られる。「両方」という回答には、金水(2003)でも指摘されているように、このような言語使用の環境が影響したと考えられる。

また、図2を見ると、韓国人日本語学習者においては「男性」と回答した被調査者が12%見られることがわかる。文末詞「わ」と「男性」イメージという結びつきがどのように形成されるのか、今後さらに調査する必要がある。

最後に、文末詞「のじゃ」に関して、韓国人日本語学習者と日本語母語話者の回答をまとめたものが図3である。

文末詞「のじゃ」に関して、韓国人日本語学習者においても日本語母語話者においても「両方」という回答が多く見られており、この点で両者は共通する。しかしながら、その他の部分に着目すると、日本語母語話者は「男性」という回答しか見られないのに対して、韓国人日本語学習者においては、「男性」という回答は日本語母語話者よりも少なく、「女性」

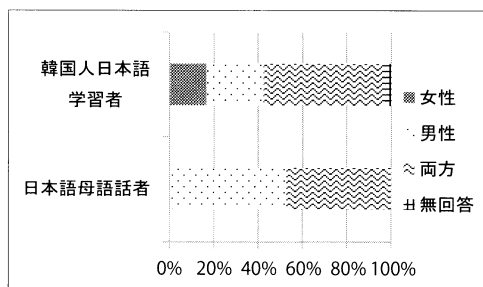


図3 「のじゃ」の調査結果  
(韓国人日本語学習者—日本語母語話者)

という日本語母語話者には見られない回答が見られる。

「のじゃ」のように日常生活であまり使用されない文末詞について、韓国人日本語学習者は教科書以外にアニメや漫画などの影響を受けていると考えられる。「博士語」のように、使用者がより限定される役割語についても、韓国人日本語学習者がそのイメージをどのように獲得するのかについて、今後さらに調査する必要がある。

#### 4.2. 動詞別の分析

これまでは文末詞別に分析を行ったが、以下においては動詞別に分析を行う。文末詞に接続する動詞の違いによって、喚起されるイメージに違いが見られるかという観点で分析すると、韓国人日本語学習者と日本語母語話者とで違いが見られることがわかる。

特に違いが見られたのが各動詞に文末詞「わ」が接続した場合である。文末詞「わ」に各動詞が前接した場合の調査結果を、韓国人日本語学習者と日本語母語話者のそれぞれについて表したものが図4と図5である。

図4を見ると、韓国人日本語学習者においては、動詞にかかわらず「女性」という回答が多いことがわかる。その一方で、日本語母語話者の場合には「わ」の使用による性別の判断には動詞の種類が関わることが図5からわかる。

日本語母語話者の調査結果を具体的に見ると、「来る」に「わ」が後接した場合には、すべての被調査者が「女性」と回答していた。その一方で、「食べる」と「する」に「わ」が後接した場合には「両方」と回答した被調査者が多く見られた。このように、日本語母語話者の場合、文末詞「わ」から喚起されるイメージは前接する動詞によって異なると言える。

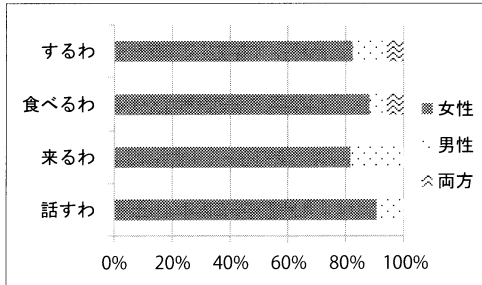


図4 各動詞に「わ」が接続した場合の調査結果 (韓国語日本語学習者)

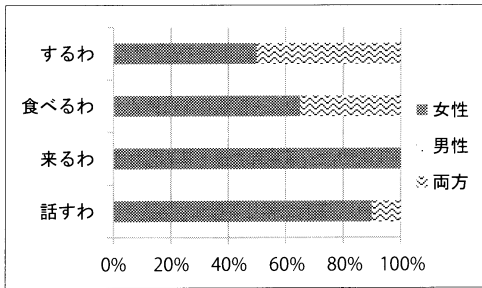


図5 各動詞に「わ」が接続した場合の調査結果 (日本語母語話者)

## 5. まとめと今後の課題

本研究では、韓国語日本語学習者が日本語の文末詞から受け取る性差のイメージについて、日本語母語話者と比較しつつ分析を行った。その結果、両者には共通点と相違点があることが明らかになった。

両者の相違点に関して、従来、文末詞「ぞ」や「わ」はそれぞれ「男性」および「女性」の文末詞であるとされてきた。韓国語日本語学習者の結果もそのような指摘とほぼ合致するが、日本語母語話者においては異なる回答も見られた。すなわち、韓国語日本語学習者においてはこれらの形式とそこから喚起されるイメージとの結びつきが固定化していると言える。

また、文末詞「わ」に関して、前接する動詞に着

目すると、韓国語日本語学習者の場合には、いずれの動詞においても「女性」イメージとの結びつきが固定化しているのに対して、日本語母語話者の場合には、前接する動詞によって喚起されるイメージが異なることがわかった。この結果は、従来指摘されるような文末詞がそれ自体で有する役割語としての働きに加えて、動詞と結合して文の一部となった際に役割語としての働きが生じることを示唆するものであり、役割語研究に新たな視座を与えるものであると考えられる。この点について、本研究では四つの動詞しか扱うことが出来なかったが、今後は動詞さらには他の文の成分を追加して、検討する必要がある。

加えて、先に述べたように、韓国語日本語学習者においては文末詞「ぞ」と「男性」イメージ、「わ」と「女性」イメージといった結びつきが固定化していることが確認されたが、そのような結びつきがどのように習得されたのかということや「方言」に関するインプットをどの程度受けており、それがイメージの形成にどのような影響を及ぼしているかについてもさらに調査を行う必要がある。いずれも今後の課題としたい。

## 参考文献

- 恩塚千代 (2011) 「韓国の教科書における役割語の役割—「生きた日本語」を教えるバーチャルリアリティー—」 金水敏 (編) 『役割語研究の展開』 くらしお出版, pp.51-69
- 金水敏 (2003) 『もっと知りたい日本語 ヴァーチャル日本語 役割語の謎』 岩波書店
- 鄭恵先 (2007) 「日韓対称役割語研究—その可能性を探る—」 金水敏 (編) 『役割語研究の地平』 くらしお出版, pp.71-93
- 柳敬恩 (2007) 「日本語終助詞に関する研究—日本語の教育の側面からの接近—」 韓南大学校教育大学院 学位論文 (碩士)